

『絵本都の錦』の出版と名所図会——補遺——

西野由紀

本稿では、拙稿「『絵本都の錦』の出版と名所図会」の執筆後に判明した原本の所蔵先をまとめた。

『絵本都の錦』には、①天明七年版と②寛政三年版とがあることはすでに述べたとおりである。この①系統本と②系統本の現存状況について、あらたに所蔵が確認された機関をくわえ、つぎに記す。

① 国内 ↓ 国立国会図書館

筑波大学附属図書館

京都外国語大学付属図書館

円頓山興正寺

国外 ↓ カリフォルニア大学バークレー校東アジア図書館

大英博物館（二冊）

ボストン美術館

キヨツソーネ東洋美術館

国立スミソニアン協会フリーア美術館

② 国内 ↓ 西尾市岩瀬文庫

京都外国語大学付属図書館

国外 ↓ ボストン美術館

このうち、①系統本・国外機関のキヨツソーネ東洋美術館ならびに国立スミソニアン協会フリーア美術館と②系統本・国内機関の京都外国語大学付属図書館とがあらたにくわわり、『都の錦』の原本は一〇機関の一三冊が現存していることを確認した。なお、『国書総目録』に記載のある高木文庫本については、天理大学附属図書館の所蔵ではないことがわかった（現存するかどうか不明）。

ところで、矢野貫一「絵本都の錦所見」について、拙稿でつぎの

ように記した。

矢野論文は「京都外国語大学附属図書館に架蔵する一本により、観察検討するところを述べ」としたうえで、②系統本の奥付を翻刻している。ところが、管見したかぎりにおいて、現在、京都外国語大学附属図書館に所蔵されているのは①系統本のみであることがわかった。くわえて、現存する京都外国語大学附属図書館本は矢野論文がふれる序文の丁が欠落しており、表紙を繰るとすぐに絵図がはじまる構成になっている。つまり、矢野論文という寛政三年の刊記をもつ「京都外国語大学附属図書館に架蔵する一本」は、現在、確認できないのである。いかなる経緯でこうした齟齬が生じたのかは不明だが、すくなくとも京都外国語大学附属図書館にはかつて②系統本が架蔵されていた時期があり、その後の行方は知られず、現状では①系統本のみが残されていることになる。

この指摘について、追記したい。

先述のとおり、京都外国語大学附属図書館には①系統本と②系統本とが所蔵されていることがわかった。前者は「資料」一九八五二五」、後者は「資料」四〇〇八五九」で登録されており、矢野論文の依拠する②系統本は後者だとみられる。当初、②系統本をみつづけることができなかったのは、書誌情報において①系統本と

は異なる書名で登録されていたこと、何らかの事情で別置されていたことによるとみられる。なお、現状では②系統本の書誌情報が訂正されたため、①系統本と同じ書名の書籍として検索することができる。